

# よろずは

平成二四年

十一月号

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。

万葉文化館 おすすめ万葉歌

武蔵野に 占へ象焼き

現実にも 告らぬ君が名

占に出にけり

万葉集 卷十四—三三七四 作者未詳

## 【意識】

武蔵野での、鹿の骨などを焼いた形をみる占いで、現実には私が口に出したことのないあなたの名が、はつきりと占いに出してしまった。

みなさんは占いを信じますか？ 見渡してみると、ワイドショーや新聞・雑誌などには、必ずといってよいほど占いのコーナーがあるように思えます。現代の日本人がみんな占いを信じているというわけではないでしょうが、ふとしたときに気になるのかもしれない。

この歌は東国（信濃国・遠江国より東の地域）の歌を収集した「東歌（あづまうた）」のなかの一首で、歌に詠まれたとおり武蔵国（東京都・埼玉県・神奈川県）の歌です。好きな人の名を誰にも告げず密かに恋心をつのらせていたのに、占いにはつきり出ってしまった、とあります。占いが的中した驚きを表現したとも、占いにかこつけて好きな人に思いを告白したともいえる歌です。『万葉集』には、「夕占」「足占」「水占」など、ほかにも様々な占いが登場しますが、どのような占いだったのかは、あまりよくわかっていません。 【万葉古代学係】